

会 議 録

1 会議名

令和5年度第1回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・くわどり湯ったり村及びゆったりの家指定管理者の指定について（公開）
- ・中山間地域農業「将来ビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について（公開）

【協議事項】

- ・「地域活性化の方向性」について（公開）

3 開催日時

令和5年5月22日（月）午後6時30分から午後7時40分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：坪田 剛（会長）、金森幸雄（副会長）、安達麻美、齊藤徳夫、佐藤寿美子、佐藤峰生、田村 隆、平野コトミ、水寫豊秋、横田正美（欠席者2名）
- ・観光振興課：若山課長、宮下主任
- ・農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長、小暮係長
- ・事務局：北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、小川係長、丸山主任

8 発言の内容

【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【坪田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：齊藤委員に依頼

議題【報告事項】くわどり湯ったり村及びゆっつりの家の指定管理者の指定について、観光振興課へ説明を求める。

【観光振興課：若山課長】

- ・挨拶

昨年度から皆様にもご案内のとおり、リフレ上越山里振興(株)の解散や指定管理者の指定取消しの検討に伴い、新たな指定管理者の選定を進めてきたところである。指定する企業は、選定委員会を経て、明日の臨時議会に提案している。臨時議会の前だが、本日は、提案している内容を元に、皆様にご説明をさせていただき、決定自体は、明日の臨時議会をもって決定となる。これから地域の皆様、町内会等にご説明に入りたいと思っているので、ご了承、ご理解いただきたいと思う。

【観光振興課：宮下主任】

- ・配布資料「くわどり湯ったり村及びゆっつりの家の指定管理者の指定について」に基づき説明

【坪田会長】

議会前のため、答えられない場合もあるかもしれないが、質疑を求める。

【田村委員】

目標とする利用者数の項目で、令和5年度で3万3,000、令和6年度で3万7,800とある。期間の違いもあるが、今年度は6月からの9か月間で、実際問題として可能な数字なのか疑問に思う。

【観光振興課：若山課長】

何もなくこの数字が出てきたのではなく、募集に当たり、これまでの実績等を我々が出した上で、オーガニックリゾートホールディングス株式会社から出していただいた数字なので、頑張っていただけと思っている。ご心配のとおり宿泊自体を今やっておらず、これからはすぐにはできる予定ではないので、数字は多少変わる可能性はある。そこはオーガニックリゾートホールディングス株式会社が尽力していただけている。

【坪田会長】

他に質疑はないか。

【齊藤委員】

応募企業に、他2社と書いてあるが、県内県外を教えてください。

【観光振興課：若山課長】

他2社は県内の業者である。オーガニックリゾートホールディングス株式会社は県外であり、その他2社は市内の事業者から応募いただいた。

【坪田会長】

他に質疑を求めるがなし。

【報告事項】くわどり湯ったり村及びゆったりの家指定管理者の指定について、終了とする。

— 観光振興課 退席 —

次に、**【報告事項】**中山間地域農業「将来ビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について、農村振興課中山間地域農業対策室へ説明を求める。

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

・挨拶

昨年の6月23日に、中山間地域農業将来ビジョンの作成状況をご報告させていただいたが、この度、市内8つの地域の将来ビジョンが完成したことから、該当する地域に対し、ビジョンの内容や今後の取組方針についてご報告させていただくものである。初めに、取組の背景や概要を改めて説明させていただくが、農業者の減少や、高齢化の進展に加え、担い手不足や生産条件不利など、中山間地域特有の課題が山積する中、中山間地域農業が将来にわたって維持されるよう、令和3年度からそれぞれの地域における農地利用や地域農業のあり方を定める将来ビジョンの作成の取組を進めてきた。具体的に申し上げますと、市内、中山間地域の8つの地域自治体に、幅広い世代の農業関係者が参画する「みらい農業づくり会議」を設置し、ワークショップ手法を用いた新しい形での話し合いを重ねる中で、まず地域が目指すべき、ありたい姿を一言で表すキャッチフレーズを掲げ、これを実現するための方策として、担い手、作物選定、農業機械、土地利用、そして活動のエンジンとなる組織、の5つのテーマを設定するとともに、それぞれのテーマごとに、いつ、誰が、どうやって、といった具体的なアクション計画をロードマップとして整理した。当地域の将来ビジョンの内容は、農業を守ることは地域を守ることでもあり、この農業ビジョン、その将来ビジョンをしっかりと地域に浸透させ、熱量や機運を高める中で、非農業者も巻き込んだ地域ぐるみの取組に発展させていきたいと

考えている。また、市では、この将来ビジョンの実現を後押しするため、今年度から各地域が本格的な実施に先立って行う事前準備や試行などの初期段階の取組を支援する新たな補助制度を創設するとともに、地域に入って、取組の手助けを行う、中山間地域元気な農業づくり推進員を2人増員の4人体制とするなど、地域の取組を資金と人材育成の両面で、きめ細かくサポートしていく。このように市としても、将来ビジョンの実践をしっかりとバックアップしていくので、取組が着実に前進していくよう、皆様方の一層のご理解とご協力を、お願いしたい。

【農村振興課中山間地域農業対策室：小暮係長】

- ・配布資料「『みらい農業づくり会議』開催状況と『将来ビジョン』取組内容の一覧表」、
「中山間地域農業の維持・振興に向けた『谷浜・桑取区』の将来ビジョン」、「～取組の実践に向けたロードマップ～」に基づき説明

【坪田会長】

時間がない中で、足早に説明していただいた。本来であれば、もっとゆっくりお聞きしたい事項がたくさんあるように思っているが、今まで聞いて質疑はないか。

【横田委員】

桑取の奥の北谷という集落で、今現在まだ仕事しながら、田んぼと春の山菜やタケノコ、ぜんまい等を、朝4時に起きて採っており、やっとどうにか落ち着いたところである。こういう活動を体系立てて計画を立てて、初めて見て非常に驚いている。何年か前から田んぼでも農協さんを通じてドローンで防除してもらい、夏の暑い中、田んぼの中に入らなくて良くなり、非常にありがたいと思っている。農業機械の共有化も、現在自分で乾燥、出荷まで全部やっており、非常にそういう負荷もあるので、今後特に参入をしていただけるような若い方が来るのであれば、そういう機械の共有化も、それが前提になってくるのではないかと思う。山菜については、自分の親や、祖父の世代は山に行けば幾らでもあり、イノシシやクマの心配もない時代のときは、好きに採っていたが、最近では自分の周りで、昔の棚田にぜんまいを移植したり、竹林も、何年かおきに中の枯れた竹を伐採して、新しく出た竹を意図的に入れ替える等手入れをして、ただ採るだけではなく、それを維持管理するという仕事もやっている。自分も何年かおきに山にこもって竹を伐採したりしているが、まだ勤めていて仕事をしながらやるとなると土日や朝4時5時から起きてやらなければいけない。いずれ仕事が終わって、農業やこういう仕事に専念できるようになれば、一緒に参加してみたいと思っている。

【農村振興課中山間地域農業対策室：飯田室長】

今年からビジョンの取組実践ということで、今ほどお話をさせていただいた中心となる組織も、初めての実践ということで我々も引き続きしっかりとサポートして参りたい。小さな成功を一つ一つ積み上げながら、そしてこの成功体験を、地域の中にしっかりお伝えして、共有する中で取組の輪が広がっていくように、進めていきたいと思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

【坪田会長】

他に質疑を求めるがなし。

【報告事項】 中山間地域農業「将来のビジョン」の完成と実践に向けた取組方針について、終了とする。

— 農村振興課中山間地域農業対策室 退席 —

次に**【協議事項】**「地域活性化の方向性」について、事務局へ説明を求める。

【丸山主任】

・資料No.1、資料No.2に基づき説明

本日はこの資料と、先日の意見交換会でお聞きした意見を踏まえて、「地域活性化の方向性」について、決定に向けた協議をお願ひしたい。

【坪田会長】

事務局作成の「地域活性化の方向性」の修正案について、質疑を求める。

(質疑を求めるがなし)

では、これで谷浜・桑取区の「地域活性化の方向性」を決定してよいか。(賛同の声)
今後について、事務局に説明を求める。

【丸山主任】

「地域活性化の方向性」は、こちらの修正案で決定ということでお願ひしたい。この後、地域政策課へ報告し、その後市のホームページで公表する。今後は、この「地域活性化の方向性」の、具体的な取組の実現に向けた対応を検討いただきたい。

【坪田会長】

(案)を抹消願う。次に、「地域活性化の方向性」決定後の実行方法について、協議に移る。事務局に説明を求める。

【丸山主任】

「地域活性化の方向性」決定後の、実行方法について協議をお願ひしたい。4月23

日の意見交換会の場でも、今後どのように推進していくのか、たくさんの意見が出た。この策定した「地域活性化の方向性」に基づいて、どのように取組を実行に移していくか、その体制作りについてご協議をいただきたい。

・資料No.2 <「地域活性化の方向性」決定後の取組方法>に基づき説明

「地域活性化の方向性」を実現するため、地域協議会の中に、テーマごとの部会を設置して、関係団体と連携する仕組みが必要になってくるのではないかという意見があったと思う。他の地域自治体の地域協議会において、テーマを個別に設定して細かく深堀りをしていくということで設置している事例もある。部会の設置については決まったルールはなく、費用弁償に関する取扱いのみが決まっている。部会の設置をどのようなテーマで、何人の配分でという部分に関しては、部会を設置するのであれば、どのような形で設置するかについてご協議いただくという流れになっている。今後の推進体制については、部会の設置も含め皆様にご協議いただきたい。

【坪田会長】

事務局の説明について、質疑を求める。

【佐藤峰生委員】

今後の地域協議会の方向性ということで、提言をさせていただきたい。先日、地域団体との意見交換会があり、今後どのように進むべきか、ということについて、下記のように提言をさせていただきたいと思う。まず意見交換会の席でキャッチフレーズ、取り組むべき項目が、確認、共有化されたかどうかを、クエスチョンマークがついているものについては、皆さんからも考えていただきたいという意味である。冒頭、参加者から質問があった。私はあの質問を聞いてヒヤっとした。どういうことかということ、その参加者は、参加の目的は何だったのか、何を発言すればいいのかという思いで質問されたと思う。要は、この意見交換会に臨むにあたって、私たち地域協議会の委員が、どのようにして意見交換会を、どの方向に持っていくかということ、事前に議論をしていなかったと思い、ヒヤっとした。テーマが決まっていないから、会議があちこちに、いろいろな意見が出て、まとまらない方向になりそうだったものだから、かみえちご山里ファンクラブから、次の一步というキーワードが出たので、私の方から、次の一步をとということで皆さんに質問をさせてもらった。要はどう一步前に進むかということ、皆さんから聞いたかったわけである。結果としては、出席された地域団体の全員の方から、次の一步を聞くことができなかったことは残念である。ただ地域の活性化や元気にすると

というのは、皆さんの共通認識だと思う。では次に何をすべきなのか。意見交換会の席では、私の認識としては、問題提起や、意見を集約をするという足踏み状態で終わったのではないかと感じた。事務局でまとめてもらったものを見てもらいたい。「地域活性化の方向性」として、若い世代にとっての魅力があって、住み良さを実感することが、住民が幸せになることが一番大切、というところで終わっている。そのために何をすればということを、次の一步として私は聞きたかったのである。そのような足踏み状態は、もう終わりにして、行動を起こす、一步前に進むという段階にきたのではないかとということで、うちの町内の鍋ヶ浦三十三観音堂の歩みということで、具体的な例でお話をさせてもらいたいと思う。鍋ヶ浦三十三観音堂の歩みということで、第一歩は、地域づくり協議会が、地域の魅力を発信しようということで、ガイドマップを作るということになり、私に声をかけていただいた。第一歩はガイドマップ作りに、参画をさせていただいた。第二歩は、ガイドマップに鍋ヶ浦三十三観音堂を掲載させていただいた。これが第二歩である。第三歩は、案内看板を、地域づくり協議会の皆さんの努力で、設置をさせていただいた。第四歩が、非常に恥ずかしい話であるが、町内で主に清掃面で管理が行き届いていなかったという反省があり、今の時期はカメムシが出るなどということがあるので、清掃担当を選任して、年間1万円の手当を支給する。これは毎年持ち回りの班長さんが担当するという形になっている。ある程度管理ができるように取り組んでいき、第五歩が参拝に訪れる町外の方が増えた。具体的には、観音堂の行事が年に3回あり、その時に町内の方が賽銭を上げて観音様にお参りをする。例年は1年間で5,000円くらいだが、去年は1万円あった。町内以外の方が、賽銭を上げてお参りにきてくれていることは、もう明らかである。私も観音様にお参りしてきたと、年配の方から声をかけられたこともある。第五歩はそこである。そういう状態になったので、町内としても、次の一步は何するかということで、いくつか考えていることがある。おもてなしをするような形にできないかということで、公会堂の中に三十三観音堂が入ってるが、前は防火水槽がありコンクリートになっており、土の部分が少ないが、一部土の部分があるので、そこに春であれば芝桜やチューリップ、夏はひまわり、秋はコスモス等、季節の花が見られるようにできないかと。当然面積が足りないので、フラワーポット等何かを置くようにできないかと。公会堂にはトイレがあるが、くみ取り式で、町内の方は行事とか会議があっても、ほとんど利用しないという状態である。水洗まではしなくてもいいと思うが、訪れる方が用足しができるようにある程度綺麗にして、簡易便座等を設置

してはどうかということが、第六歩目で、第七歩目を今検討してる段階である。今この三十三観音堂を見ていただいて、一步を踏み出すと、次の一步は何をすべきかがわかってくる。今、私はおもてなしという言葉を使ったが、町内に、参拝で訪れる方が多くなってきたときに、町内としてどうやって受け入れるかということ、これから考えていかなければいけないということになる。その先をどうするかということも、当然出てくると思う。三十三観音堂の一步、二歩、三歩、四歩、五歩、六歩、七歩という一步一步の歩みというか、そのものを例にして意見交換会も参加していただいて、各種団体の次の一步というものを、皆さんと考えてみたいと思う。会議の席上で坪田会長から長浜町内会では、えちごトキめき鉄道の沿線に、花畑づくりのプロジェクトはというお話があった。それが長浜町内会の次の一步だと思う。それをやったら、次に何をすることが当然出てくると思う。ここに挙がっている3つの団体、長浜町内会、五ヶ浦振興協議会、谷浜地区南部協和会についてお話したいと思う。五ヶ浦振興協議会の次の一步というと、会議の席上で谷浜・桑取地区公民館の公民館主事が、旧加賀街道めぐりに強い関心を示された。来年の行事の企画に100%盛り込まれると思う。そうすると五ヶ浦振興協議会の次の一步は、旧加賀街道の整備になるのではないかと。それに取り組み、次に何をすることが当然出てくると思う。南部協和会は、コロナが収まり、今まで中止になっていたいろいろな行事ができるようになると思う。地域活動支援事業の補助金で、盆踊りの設備を買ったという経過があると思う。今年が無理であれば来年、旧高住小学校区で、盛大な盆踊り大会をとという企画があってもいいのではないかと。当然会場は旧高住小学校の校庭で校歌のCDを流しながらということになるのではないかと。逆に、なってもらわなければ困る。それをやれば、次に何をするかと。前の資料になるが、6番の地域の繋がりを深めるための活動の推進に、町内会行事の継続という項目がある。単独町内会で難しい行事を複数町内会で連携して実施とある。旧高住小学校区という大きな枠の中で実施するということになれば、ある程度実現性が出てくるのではないかと。同窓会組織への働きかけという項目がある。当然、旧高住小学校の同窓生に向けて、地域でこんなことをやるという働きかけである。そのような取組にも広げていくことができるのではないかと。たにはま公園管理組合からは、たにはま公園にはたくさんの方が来ているという話があった。そこで終わっている。たにはま公園に訪れる人たちが、ガイドマップの内容を知っているのだろうか。花桃の里で桃が咲いているということはわかっているのかと、いうふうに考えたときに、何をするのか、何

かすることはないのかと。谷浜地域づくり協議会の皆さんは、毎年のように努力して継続的な活動をしている。この日もウォーキングをされたという紹介があった。城ヶ峰の砦跡の整備も毎年やっている。先ほど言ったように、各地域の看板整備等、要は地域のお宝、財産の継続的な維持管理ができるように努力されている。地域独自の予算で、たにはま公園に大きな看板を設置することはできないか。谷浜地域づくり協議会とたにはま公園管理組合の合同プロジェクト、或いはたにはま公園から城ヶ峰砦跡への道の整備がある。訪れる方が、2時間くらい散歩やウォーキングをするということにつなげていく。というふうに考えると、実際に取組を実現できるのは、各団体である。もちろん個人、グループという小さな枠でもいいと思うがそういうことになると思う。この地域協議会がどういう方向に進んでいくかということで、意見交換会の際、部会を作ってはどうか、という意見をいただいたが、要はこの地域協議会は、今後どんな役割を果たしていくかということになると、部会を2つから3つぐらい作って、項目別に6項目あるわけだが、その6項目を部会ごとに割り振るような形にして、次の一步に関係する団体に働きかけをする。今、いくつか例を出したが、その団体に働きかけをする。役割としては、プロデューサーであり、ディレクターであり、コーディネーターであり、旗振り役であるという形になるかと思う。こちらの団体とこちらの団体の皆さん集まってください。これについて具体的にどうすればいいですかということ、まとめ役のような形にして進めていってはどうか。今私が具体的な例を出したのは、実現性がない項目ではないと思う。下にキャッチフレーズを2つ挙げさせてもらった。踏み出そう未来への一步を。一步踏み出すと次に何をするか、周りの景色が一步分だけ変わる。また課題も見えてくる。昨日の夢は、今日の希望、明日の現実というが、足踏みしていたり、立ち止まった状態では、夢は夢のままである。一步踏み出すと、踏み出した分だけ夢に近づくということになる。一人一人が一步前へ出る、活性化という大きな取組をしようとする、どうしても足踏みしてしまう。ところが一人一人は一步前へ出ることはできると思う。地域の住民がみんなだ一步前へ出れば、相当な前進になると思う。活性化というのは、新しい一步を踏み出すことではないかと私は思う。その旗振り役をこの地域協議会が、これから進めていってはどうかということで、提言をさせていただく。長い話で申し訳なかったが、私の話をたたき台にしていただき、皆さんでよりよい方向性を決めていただければと思う。

【坪田会長】

佐藤峰生委員の意見は、確かにそのとおりである。4月23日の時にも意見はたくさん出たが、あの場はあくまでも意見を取りまとめるだけの部分であったが、それをまた今回持ち帰り、地域協議会で何をすべきかということであった。今日も時間が過ぎて大変恐縮であるが、またこれを元に、どんどん集約して一本化し、そしてどこの線に本当に進んでいくかという方向性を決めなければいけないのだが、今までずっとただ意見だけを求めて、意見はたくさんあるのだが、なかなかまとめきれないのが実態だったと思う。今の佐藤峰生委員がおっしゃるとおりのものだと思う。これから来月も当然、それに向かって一つの凝縮した形の中で、一つ一つ煮詰めた中で、本当に地域の活性化に向けて本質に迫っていかなければいけない部分だと思う。来月以降になるかと思うが、この提言を参考にして進めていきたいと思う。佐藤峰生委員そのような感じでよいか。そして皆さんについてもこの提言を参考にして、来年の4月までの任期ではあるが、何とか谷浜・桑取区の、方向性を完全に決めた中で、実行に移すことができれば一番よいのだが、なかなか厳しいものがある。皆さんのいろいろな意見を聞きながら、そしてまた忌憚のない意見を聞きながら、よりよい方向に進めていきたいと思っている。来月またその方向に向かって、一步前進して参りたいと思う。

「その他」について、事務局に説明を求める。

【丸山主任】

会長と相談の上、次回協議会を6月下旬以降に開催したい。

【坪田会長】

毎回のことだが、私と相談しなくても、皆さんと相談した方がよいと思う。ここで決めた方がより早い時間に調整できるのではないかと考えている。事務局はいつがよいか。

【丸山主任】

会場の空き状況もあるが、候補日を挙げていただければ、調整をさせていただきます。

【坪田会長】

委員の皆さんの予定を確認。

【丸山主任】

次回協議会の候補日を、6月26日（月）とさせていただきます。会場の空き状況が確認できたら追って案内を送付する。

【坪田会長】

欠席の場合には、連絡をしてほしい。その他、事務局から何かあるか。

【丸山主任】

上越市では地域自治推進プロジェクトに取り組んでおり、これからの地域自治の理想的な姿というものを改めて検討しているところである。まちづくりに取り組んでいただいている団体の皆様や、地域協議会委員の皆様に、日頃感じていることなど、意見をお聞きして、そのプロジェクトの中で検討の参考にさせていただきたいと思っている。委員の皆様に後日調査票を送らせていただくので、質問内容について回答を記入し、同封の返信用封筒で事務局宛に返送をお願いしたい。

【坪田会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。